

令和3年度教育事業
羽咋市教育委員会連携事業

「HAKUI キッズイングリッシュキャンプ」

1 趣旨 ALTや国際交流員（以下、外国人スタッフとする）、ボランティアスタッフ、仲間との交流を通じた体験活動を通して、英語による基本的な表現に慣れ親しみながら積極的にコミュニケーションを図る素地を養いたい。また、様々な国の文化紹介や国際交流員との触れ合いによる異文化理解を通して、グローバル意識を高めることにつなげていきたい。これらの体験が児童にとって、それぞれの活動のねらいに迫る達成感や満足感を味わうことに繋がり、何事にも前向きに考える児童の育成を図っていきたい。

2 日程・内容

(1) 期日・参加者等

期日	参加校（学年）	参加児童数	外国人スタッフ	学生ボランティア
9月2日（木）～3日（金）	西北台小学校（5、6年）	25名	2名	6名
9月6日（月）～7日（火）	邑知小学校（5、6年） 余喜小学校（5、6年）	57名	5名	16名
9月13日（月）～14日（火）	羽咋小学校（6年）	57名	5名	10名
9月14日（火）～15日（水）	粟ノ保小学校（5、6年）	21名	2名	4名
9月16日（木）～17日（金）	羽咋小学校（5年）	61名	5名	7名
9月21日（火）～22日（水）	瑞穂小学校（5、6年）	40名	4名	6名

(2) 活動内容

1日目(日帰り)	2日目(日帰り)
<p>Activity1【共通プログラム】</p> <p>妙成寺見学 次の2点を目的として、各学校共通のプログラムとして実施した。 ・国指定の重要文化財である妙成寺を見学することにより、地域の歴史や文化への理解を深める。 ・外国人スタッフとの感想交流や、各国の歴史的建造物についての紹介等を通して、他国の方のものの見方・考え方、文化にふれる機会とする。</p> <p>オープニングセレモニー 「Stand straight（気をつけ）」「bow（礼）」司会の児童の英語で始まった。その後の所長の歓迎の言葉、代表児童の決意等、すべて英語を使って挨拶をした。</p>	<p>Activity3【選択プログラム】</p> <p>野外炊飯（世界の料理） ①バエリア・トルティージャ（スペイン） ②クラムチャウダー・ホットドッグ（アメリカ） ③チキンカレーライス（インド）</p> <p>英語でコミュニケーションと異文化理解を目的に、各国の代表的な料理づくりに挑戦した。 上記の3つのメニューの中から、学校ごとに選択してもらい、野外炊飯を実施した。 最初に食材や道具等の英語表現を確認し、作り方は外国人スタッフの英語での説明を聞き取るようにした。活動中は、「Please bring～」等の表現を使いながら、英語でのコミュニケーションを行った。</p>
<p>Activity2【選択プログラム】</p> <p>英語でのコミュニケーションを交えた次の野外活動プログラムを学校ごとに選択して実施した。</p> <p>①English walk rally ヒント写真と英語での指示に従って、班で協力しながら館内及び敷地内を制限時間内に回る。コース内に設けた5つのチェックポイントでは外国人スタッフとの英会話をを行う。活動中の会話のやりとりは英語で行う。</p> <p>②English disc golf 英語でのコミュニケーションを交えながら行うディスクゴルフである。基本的には説明は英語で行い、注意事項等について日本語で補足説明した。コース内に設けた5つのチェックポイントでは外国人スタッフとの英会話をを行う。</p>	<p>クロージングセレモニー 子供たち同士で2日間の振り返りを行い、感想を交流し合った。また、外国人スタッフからの感想や母国語でない言語を学ぶきっかけ等聞く場面も設けた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【妙成寺見学】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【English walk rally】</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>【English disc golf】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【野外炊飯（世界の料理）】</p> </div> </div>

(3) 事業の実施にあたって工夫したこと

<他団体との連携>

①羽咋市教育委員会

平成31年3月に連携協定を結んでおり、事業の内容等について年度当初に協議検討を行っている。また、市内小学校の実施日の調整と決定、ALTの参加等の協力をいただいた。

②近隣の大学

金沢学院大学、北陸大学、北陸学院大学に協力を依頼し、ボランティアスタッフの派遣に協力をいただいた。各回、参加校の児童数に応じた人数を派遣していただいた。

参加者アンケートでは、大学生ボランティアスタッフについて、「分からなかった英語を教えてもらって、英語がどんどん分かって楽しかった。」、「学校の先生になりたいから英語を勉強しているという人(学生)がたくさんいて、私も英語をもっともっとできるようになりたいと思った。」という声があり、参加者にもよい影響を与えることにつながった。

③小学校との打ち合わせ

7月中旬から8月末にかけて、各小学校の担当の先生方とプログラムの内容やタイムスケジュール等について数回打ち合わせを行った。各学校の実態や要望を聞きながら、活動プログラムを決めていった。

<新型コロナウイルス感染症対策>

- ・当初1泊2日で計画していたプログラムを日帰り2日のプログラムに変更して実施した。
- ・グループ活動を5~6名程度にして、密接になる活動プログラムをできるだけ避けた。
- ・参加者のマスク着用、手洗い、手指消毒等の徹底を行った。
- ・食堂利用時や野外炊飯時は、食事時の黙食にご協力いただいた。
- ・参加者の事前・事業中の検温等の健康観察を徹底した。

<2日間を通じた活動の工夫>

①使ってほしい英語の表現15

本事業中に「使ってほしい英語の表現15」を決め、オリエンテーションの際に子供たちに対して、具体的な使い方や場面、発音の仕方を外国人スタッフと共に練習した。子供たちはもちろん、指導者やボランティアスタッフも表現を意識しながら英語を使うようにした。また、活動ごとに必要な表現等についても、活動の前に確認することで、参加者が意識的に使えるようにした。



【使ってほしい英語の表現15】

②振り返りの場

活動の終わりには必ず振り返りの時間を設けた。グループ内で学んだことや感想の交流を行い、その後は全体で意見を共有するという流れをつくることで、コミュニケーションを図りながら、振り返りを行うことができるようにした。



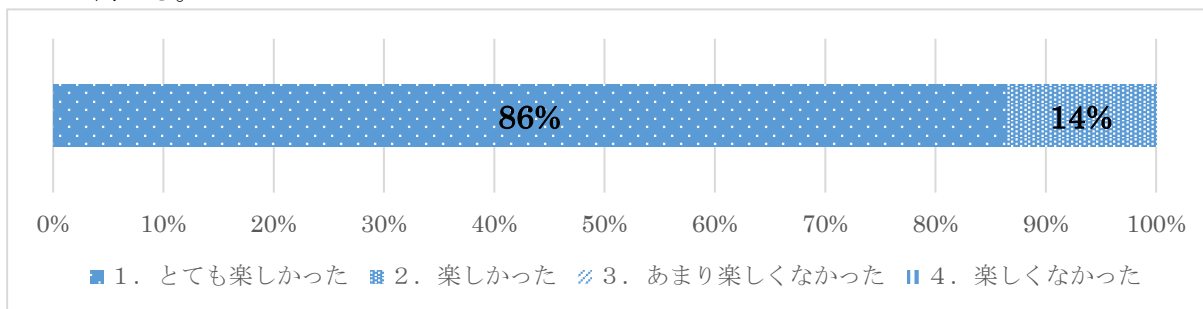
【振り返り】

3 成果と課題

(1) アンケート結果より

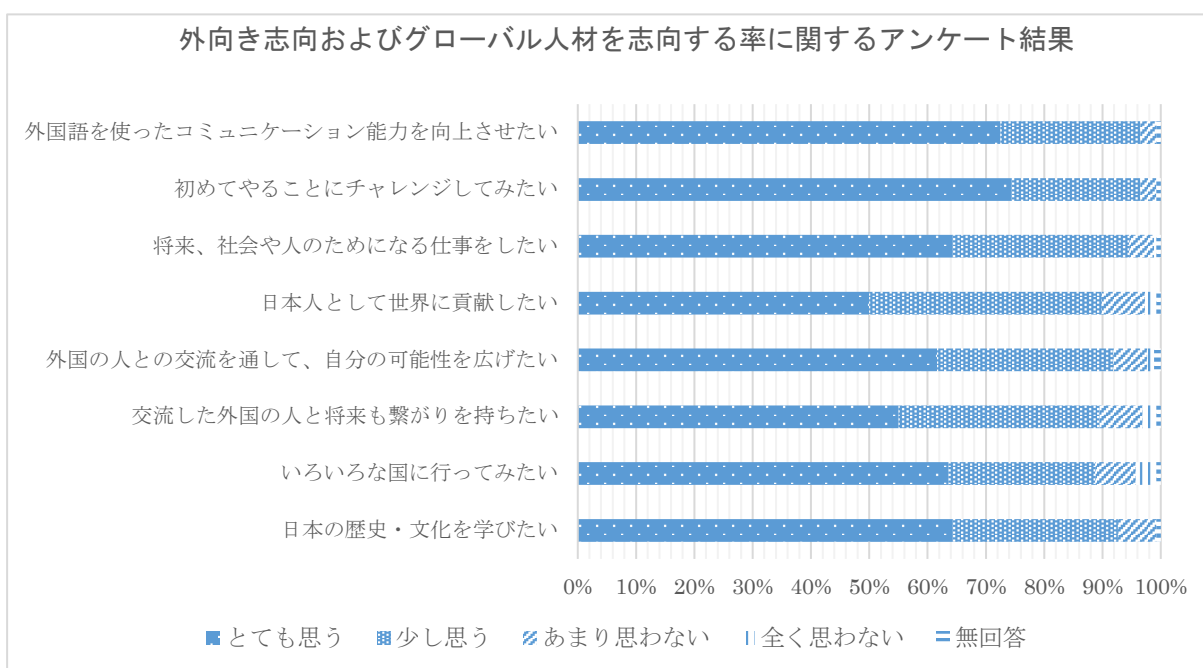
① 事業全体の満足度

「事業全体の満足度」に対する回答は、「とても楽しかった」および「楽しかった」を併せた肯定的気な回答率が 100%となっており、参加者にとって有意義な事業になったことが伺える。



② 外向き志向・グローバル人材率

本事業では国際交流に対する意識を調査するために、外向き志向およびグローバル人材志向に関するアンケートを、全参加者を対象に実施した。



<外向き志向率について>

外向き志向とは、日本人参加者に対して、文部科学省が定めた調査項目 3 項目「日本人として世界に貢献したいと思いますか」「外国の人との交流を通して自分の可能性を広げたいと思いますか」「交流した外国人と将来も繋がりを持ちたいと思いますか」のアンケート結果を集計したものである。そのうち、肯定的な回答の集計から算出した本事業参加者の外向き志向率は、92%と高い数値を示している。

令和 2 年度との比較では、令和 2 年度が 78%であったのに対して、外向き志向率が上昇している。

<グローバル人材志向率について>

国立青少年教育振興機構では、上記の外向き志向調査に加え、独自に語学力・コミュニケーション能力および異文化に対する理解と日本人のアイデンティティー等を加えた 8 項目のアンケートを作成し、「グローバル人材を志向する率」として、平均 80%以上の肯定的回答を得ることを目標に国際交流事業を実施している。本事業においては、参加者の事業後のグローバル人材を志向する率は、93%と高い数値を示している。

令和 2 年度との比較では、令和 2 年度が 82%であったのに対して、グローバル人材志向率も上昇している。

②参加者の声

【全体】

- ・ 昨年のイングリッシュキャンプでは、あまり英語を使うことができなかつたけど、今年は少しずつ自分から英語を使って楽しく体験することができた。
- ・ 前までは英語は好きではなかつたけど、今回のイングリッシュキャンプをして英語が好きになれたのでよかった。

【妙成寺見学】

- ・ 初めて妙成寺に行くことができたのでうれしかった。妙成寺クイズでもっと妙成寺のことを知ることができたし他の国々の建物についてたくさん知ることができた。これからはもっと外国の建物や歴史について知りたいと思った。
- ・ 10棟が重要文化財で驚いた。しかも江戸時代に建てられた貴重な建物も残っていたから、これからは妙成寺を大切にしていこうと思った。

【English walk rally】

- ・ みんなと英語を使いながら道案内したり、だれかが間違えてしまっても「No problem.」と言って、助け合ったりして、ミスを楽しめた。また、英語で会話する力もついた。
- ・ チェックポイントのミッションで、国際交流員の方と、少し会話をしたとき、「私はこの英語のときはこう発音していたけれど、本当はこうやって発音するんだ」という発見があつて、これからは国際交流員さんのように発音しようというとてもいい勉強になった。

【English disc golf】

- ・ 一番英語を話すことができたし、みんなで楽しくすることができた。
- ・ 「Good job!」など、班のみんなに声をかけることができた。

【野外炊飯】

- ・ パエリアづくりをみんなで協力したり、英語をボランティアや友達に聞いたりして活動した。初めて知ったこともたくさんあつたので、これからはもっと英語を知りたい。
- ・ 料理を作りながらたくさんの英語を話せた。レシピの英語を読んだり、食器を片付けるときに英語を使ったりした。

【スタッフ（国際交流員・学生）との交流】

- ・ このキャンプを通して、基本的な英語以外も、「この言葉英語で何ですか」みたいな難しい英語も「しゃべることができたので、自分自身の能力の成長にもなつていいなと思つた。

(2) 成果

- ・ 外向き志向率およびグローバル人材志向率がともに90%以上の高い数値を示していることから、本事業の活動プログラムは児童の外国語でのコミュニケーションに対する興味・関心を高めるとともに、「外向き志向」向上に有効であったと言える。
- ・ 妙成寺見学を取り入れたことにより、宗教や歴史的な建造物の面から各国の文化について学ぶとともに、地元の歴史や文化財について知る機会となった。
- ・ 教科（外国語科）に関連した体験活動プログラムとして、新たにEnglish walk rally、English disc golf、3種の野外炊飯プログラムの開発を行い、学校ごとにプログラムを選択して実施することができた。

(3) 課題

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大により、1泊2日の日程を2日間の日帰り日程に変更し、感染症予防の対策をとった上で実施した。多くの外国人スタッフや学生との交流を行うことを前提とした事業であるため、今後も感染症対策について徹底していきたい。
- ・ プログラムによっては外国語でのコミュニケーションよりも日本語での説明が多くなつてしまふものがあつた。参加者がより外国語でのコミュニケーションに親しめるよう、各プログラムの構成、各活動内容・方法の工夫・改善が必要となる。